

たいせい せこう
大世通宝・世高通宝

琉球王国が発行したコイン



出土遺跡 那珂川町 ごかやまあみとり 五ヶ山網取遺跡

「たいせい大世通宝」と「せこう世高通宝」は琉球王国が鑄造した銅銭です。琉球王国の初期には、東南アジア・中国・日本・朝鮮を結ぶ東アジア貿易の中継地として栄えました。交易には主に中国の銅銭が使われていましたが、中国銭不足を補うために鑄造しました。東南アジアや明国への交易船が琉球王国に立ち寄った際に入手し、九州に持ち帰ったものでしょう。

琉球王国が独自に造った銅銭は「大世通宝」と「世高通宝」のほか「金円世寶」という3種類の銅銭がありました。独自の銭名ですが、文字の字体と大きさから明の「永楽通宝」を元にした鑄型の「永楽」を「大世」に入れ替えて鑄造したものとわかり、「通宝」の文字に比べ、「大世」の素朴な文字が対照的です。その後は文字の入らない「鳩目銭」呼ばれる中央孔が円形の無文銭が作られており、首里城で鑄造したことがわかっています。



永楽通宝

下線の付く言葉の解説は裏面にあります



琉球王国

14世紀頃の沖縄は、山北（北山）・中山・山南（南山）の3つの国が互いに争っており「三山時代」と呼ばれていました。1429年に山南王朝の重臣で佐敷の按司（領主）だった尚巴志が3つの国を統一し、琉球王国を建国しました。

1571年までに北は九州の近くの奄美大島まで、南は琉球列島最南端の宮古島・石垣島などの先島諸島を支配下におきました。

1609年に薩摩藩に侵略され、琉球王国最北端の奄美大島は薩摩領となりました。それ以来奄美大島までが鹿児島県となっています。この時、琉球王国は薩摩藩の従属国となったものの、ある程度の自治が認められ、日本の一部とはなりません。これは当時、明国が日本との貿易を禁止したものの琉球との貿易は認めていたため、明との交易の窓口とするために日本とは別の国であり続ける必要があったからで、琉球人が日本化することが禁じられました。

大世通宝～琉球王国最初のコイン～

琉球

1321～1395年 五ヶ山出土量ランキング第32位



初代王の尚巴志の子、2代王尚泰久が発行したもので、「大世」とは尚泰久が即位半年後に受けた神号「大世主」からきています。これまで最古の琉球独自のコインと考えられていましたが、現在では、琉球王国以前の「三山時代」の中山国の察度王の時代（1321～1395年）に铸造された「中山通宝」が琉球最古の貨幣である可能性が高まっています。

世高通宝～権威のアピールに利用されたコイン～

琉球

1441～1469年 五ヶ山出土量ランキング第31位



7代王の尚徳が発行したもので、「世高」は即位半年後に受けた神号の「世高王」からきています。尚徳の時代に再びコインが不足したという記録はなく、自ら軍を率いて喜界島への遠征を強行するなど無謀な政治を行ったと記録されていることから、独自のコインを铸造できることをアピールする目的だったと考えられています。

参考文献：福岡県教育委員会 2013『五ヶ山 I』福岡県文化財調査報告書第237集

写真：当館撮影

（文化財調査室 秦）